



ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

会長／関野政人 幹事／山本讓二

DISTRICT 2510 JAPAN

留萌ロータリークラブ 会報

2007▶2008 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

みんなロータリーが好きだから
出会いを創造し活性しよう

プログラム

- | | | |
|---|------------------------------------|----------------------|
| ●本日
会員研修・職業奉仕共催夜間例会
(会員研修委員会・職業奉仕委員会担当) | 会員誕生日
8月24日 佐藤 潔
8月26日 宮井 清隆 | 結婚記念日
8月25日 大沼 哲郎 |
| ●次週予定
会員増強家庭集会発表例会
(会員増強委員会担当) | ご夫人誕生日
8月23日 対馬 真澄 | |

No. 2292
第7回 8月22日



前例会

会員総数	51名
出免会員	5名
欠席会員	15名
出席率	67.39%

前々会

第4回 7月25日	
欠席会員	12名
メイクアップ	1名
修正出席率	73.91%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

✍️ 会長報告

- 先に実施されましたあんどん例会には、多くの会員の出席をいただきました。天候も回復し、成功裡に終了しました。西谷社会奉仕委員長ほか会員皆様に感謝申し上げます。
- 8月7日第2回理事会を開催し、10月に函館で開催される地区大会について協議いたしました。多くの会員の参加を戴くため、各方面のご協力をいただきました。
- 地区社会奉仕委員会「意見交換会」が8月11日に滝川にて開催されます。西谷社会奉仕委員長と出席して参ります。
- 財団国際親善留学生村上沙織さんより無事現地アメリカに到着したとのメールが田中会員宛てに届きました。
- 澤田会員よりあんどん例会での新装ハッピー

着用の記念写真を無償で会員に配布いたしました。

- 次週8月15日は休会となります。8月22日は会員研修委員会・職業奉仕委員会の合同の情報夜間例会となっております。

📁 幹事報告

- 1) 砂川RCより2007～2008年度活動計画書並びに2006～2007年度活動報告書が届いています。
- 2) RI日本事務局へ国際ロータリー人頭分担保を送金いたしました。
- 3) 国際ロータリー第2510地区酒井ガバナーより公式訪問の礼状が来ております。
- 4) ロータリーの友8月号が届きましたので、本日配付いたします。

会報受領先

- ・妹背牛 R C 1952号 ~ 1955号
- ・芦別 R C 2409号 ~ 2412号
- ・深川 R C 2366号 ~ 2368号
- ・砂川 R C 1828号 ~ 1831号
- ・羽幌 R C 1364号 ~ 1367号

ゲスト

留萌市立病院 院長 笹川 裕 様

委員会報告

例会運営委員会 二ノ宮委員長

本日例会会場入口におきまして、地区大会参加登録を受け付けております。既に皆様にはFAXにて出欠の確認をお願いしておりますが、現在21名の方が参加登録をされております。まだ15名の方の返事を頂いておりませんので、本例会終了までに返事をお願いします。なお皆様のテーブルに当日のスケジュールを置いてあります。10月19日午前8時バスにて留萌出発。午後2時ころ森町到着し、北電森地熱発電所見学例会。1時間位の見学で3時出発し、午後5時函館湯の川温泉「平成館」到着、宿泊。10月20日午前10時函館市民会館にて地区大会参加。午後5時30分～6時30分地区大会懇親会出席。午後6時30分バスにて函館出発。午前1時30分ころ留萌到着です。よろしく申し上げます。

会員増強委員会 高田委員長

既に皆様にはFAXにて連絡をしておりますが、8月の会員増強月間にちなみ、家庭集会を開催いたします。8月29日の例会で発表をお願いしますので、よろしく申し上げます。テーマは会員増強と退会防止です。なお新会員の推薦者があれば委員会までお知らせ下さい。

3分間情報

会員研修委員会 澤田委員長 「職業宣言」

1989年の規定審議会で採択された職業宣言は以下の通りである。

実業または専門職務に携わるロータリアンとして、私は以下の要請に応えんとするものである。

1. 職業は奉仕の機会なり、心に銘ぜよ。
2. 職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道徳基準に対し、名実ともに忠実であれ。
3. 職業品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を推進すべく全力を尽くせ。
4. 雇用、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆その他事業または専門職務上関係を持つすべての人々に対し、ひとしく公正なるべし
5. 社会に有用なすべての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を表すべきことを知れ
6. 自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの格別な要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。
7. 広告に際し、また自己の事業または専門職務に関して、これを世に問うにあたっては、正直専一なるべし。
8. 事業または専門職業上の関係において、普通には得られない便宜乃至特典を同僚ロータリアンに求めず、また与えうることなかれ。

ニコニコBOX

- ・ご無沙汰しております 石川名誉会員
- ・あんどん参加ありがとうございました CD頂きました 関野会長
- ・あんどん祭りご苦労様でした 地区大会の参加宜しく申し上げます 河部さんからDVDを頂きました 山本幹事
- ・このほどクラブからの友情に接しました 平井会員
- ・あんどん祭りでは大変お世話になりました DVDも頂きました 西谷(英)会員

- DVD、写真頂きました 行徳会員
 - 良い事がありました あんどん写真頂きました 中川会員
 - 田中先生よりDVD頂きました 武井、遠藤会員
 - 澤田会員より写真を頂きました 田中、斎藤、河部、西谷(恭) 鈴木、高田、佐藤(寛)会員
- | | |
|----|----------|
| 前回 | 231,000円 |
| 今回 | 35,000円 |
| 累計 | 266,000円 |

 **プログラム**……………

「沖見診療所がめざすところ」

留萌市立病院 院長 笹川 裕 様

本日は8月に開設された沖見診療所について「沖見診療所がめざすところ」と題してお話をさせていただきます。この診療所は留萌市の在宅治療の拠点としてグループホーム、ケアハウス、在宅といった在宅療養支援診療所としてだけでなく、平成20年度から40歳から75歳の方の特定健診の義務化を見据えた、特定保健指導等々いろいろな機能を持った施設です。ではなぜ在宅治療の拠点が必要なのかと申しますと、国は医療用のベッド数を減らす方針で、75歳以上の後期高齢者は、近隣のかかりつけ医に診て貰い、最期を在宅で看取することを勧めています。しかし、かかりつけ医が在宅患者さんに24時間365日対応するのは困難であるため、沖見診療所がかかりつけ医と連携し、留萌市の在宅患者さんを24時間いつでも対応し、いつでも入院できるようにして、在宅治療の機能を高めることが狙いです。現在病院で死亡する者の割合は、昭和26年に比べて正反対です。昭和26年度では約80%の方が自宅で死亡していましたが、平成14年度では逆に病院で亡くなる方が80%を超えています。留萌市の年齢別人口を見ますと、男女とも56歳以降の俗に言う団塊の世代以降人口が多く、日本人の死亡数の年次推移を見ても、毎年約100万人の方が亡くなっていますが、団塊の世代が85歳以上になる30年後には170万人

の方が亡くなると予測されています。しかし国の政策で、今後ベッド数が急激に減らされ、平成元年に120万のベッド数が平成18年に急性期ベッド80万、医療型介護型の慢性期ベッドが38万に、平成24年には急性期が50万、医療型慢性期ベッドが15万と減少します。つまり170万人の死亡数に対し50万ベッドしかなく、どこで最期を迎えるかという事になります。死亡場所の比較をすると、日本では病院が81%自宅16%施設3%、アメリカでは病院41%自宅31%施設22%、オランダでは病院35%自宅31%施設33%となっております。ガン患者の院内死亡をみますと日本は93%の方が病院で亡くなっておりませんが、アメリカでは37%、オランダにおいては28%となっております。

今後の国の方針では、在宅治療の質を向上させ、在宅治療および在宅での看取りを推進すること、メタボリック健診を義務化させ、生活習慣病の発病予防を推進させるとしています。では留萌市立病院ではこれから何をやっていくべきかと言いますと、急性期医療、救急医療、小児医療、周産期医療であり、沖見診療所が当面めざしている医療は、予防医療、在宅医療であります。

自宅で最期まで療養することが困難な理由としてあげられるのは、家族の負担、症状急変時の対応が心配という事で、24時間365日対応していつでも入院できる体制を取る事が必要とされます。沖見診療所は今後、市立病院や老人保健施設や特別養護老人ホームの後方支援や連携を取り、デイケア、居宅介護事業所、訪問介護ステーション、訪問介護事業所等と連携を取りながら、自宅、ケアハウス、有料老人ホーム、



第6回 8月8日(水) 天候/晴

グループホーム、介護施設などの在宅支援を行います。

次に先ほど話しました平成20年度から義務化されるメタボに焦点をあてた、40歳から74歳の全国民に対する特定健診についてですが、これらの健診と指導を契約し、診療所にて実施して行きます。これは飽食と車社会の到来により、生活習慣の変化と死亡原因の変化を表すグラフですが、1950年代では肺結核、脳血管疾患での死亡率が高かったが、現在は悪性新生物(ガン)や糖尿病、高血圧が多くなってきています。次に日本人の栄養摂取率の年次推移ですが、総カロリー摂取量は変わりませんが、脂肪の摂取量が倍化しており、脂肪摂取量と比例して糖尿病患者が増えています。いかに健康に長生きするかが重要ですが、これは生活習慣病の回避が健康長寿につながり、メタボの改善は脳・心血管疾患およびガンの発症を抑えます。高血圧症を患っている百寿者は64%存在しますが、糖尿病を有する百寿者は6%しかおりません。つまり糖尿病はくせものと言う事になります。これらから、日常の保健指導が健康長寿につながる事になり、国もメタボリック対策に力を入れています。尼崎市役所では2000年からメタボリックシンドロームに相当する職員に対し、生活習慣を改善するための保健指導を開始した処、それまで心疾患や脳卒中で死亡する職員がいなくなりました。

現在留萌市立病院ではメタボリック健診で、留萌市の健康事業助成金を使い、留萌市立病院が札幌医大の協力を得て、留萌市民の皆様協力者をつのり、研究論文をまとめようとしております。これは職場、団体、町内会で説明会を開催し、協力者名簿を作成し、はとふるから協力者にアンケートを郵送し、市立病院を通して札幌医科大学に解析を依頼、結果を協力者にお知らせするという仕組みになっております。協力者に送られるメタボリック問診票には氏名、年齢、生年月日、身長体重、腹囲、その他の質問が書かれています。これらの問診票からスコア判別式で、各項目の係数を数学的に割り出した数字を掛けて、18,240.61以上をメタボリック

と判別します。総合スコア点数による診断を3段階に分け、高リスク、中リスク、低リスクとし、リスクに応じた生活習慣指導と薬物治療を行い、出来れば35歳以上の全市民が一次健診を受けていただきたいと思っております。その中で高リスク群の方には二次健診を受けていただきたいと思っております。これらの協力者を3年以上追跡して評価をする事によってリスクの揃った集団での学問的データが得られ、すでに発病している者には治療、高リスク群には保険者と契約して指導、製薬メーカーと契約して薬物治療、中リスク群においては企業と契約して健康食品治療を行います。これは世界で初めての試みであり、経済界、各企業から注目されつつあり、今年度中に権利化、論文化した後、留萌市の町おこしとして、マスコミを通してアピールしていきたいと思っております。これについては皆様のご協力をお願いします。

現在留萌市立病院でも行なっている禁煙外来ですが、保険診療による禁煙指導外来を沖見診療所で行います。これは現在市立病院は敷地内禁煙が実施されていませんので、保険診療が出来ません。そのため自由診療となり、自己負担額が26,108円かかり、保険診療の12,000円に比べ倍以上かかり、成功率も保険診療の60%以上に比べ30~40%と低くなっています。沖見診療所では全て禁煙のため保険診療ができます。

最後に沖見診療所では家庭医療を目指す医師を養成する研修の場としても考えております。家庭医とは、在宅治療、内科、小児科、産婦人科、一次救急、健診・指導を中心に、かかりつけの家族全員の健康相談など幅広く総合的に対応できる医師を言い、最近全国的に家庭医を目指す若い医師が増えています。沖見診療所では家庭医療指導医のもと、家庭医を目指す若手医師を全国公募し、家庭医の研修と養成を行います。研修終了後は市立病院と連携して地域の診療所で家庭医として活躍してもらいたいと思っております。それにより広域医療連携をとって行きたいと思っております。

時間になりましたので、この辺で終わります。本日は御招き頂きありがとうございました。